

# DeVx

「人に優しい医療」への貢献

## ディービエックス株式会社 株主通信

2016年3月期報告書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

証券コード3079

### 株主の皆様へ

To Our Shareholders

厳しい経営環境の下、  
上場以来連続の増収・増益・増配を達成することができました。  
今後も、より多くの医療現場のニーズを満たすべく邁進してまいります。

**Q** 当事業年度(2016年3月期)の業績について総括をお願いします。

**A** 当事業年度におけるわが国の経済は、企業の設備投資が緩やかな回復傾向にありましたが、個人消費や企業の生産活動が低迷する等、全体として足踏み状態が続きました。また為替水準は、期末にかけて円高傾向となったものの、2015年6月には一時13年ぶりに1ドル125円台を付ける等、通期で見ると前事業年度と比較して1ドル当たり12円程度の円安水準となり、当社の輸入商品の仕入価格が上昇することになりました。

このような経営環境下で当社は、販売代理店としては営業エリアの拡大を進めるとともに、輸入総代理店としては独自商品の販売拡大と新商材の獲得に努めることで、業容の拡大を目指してまいりました。

これらの結果、当事業年度の売上高は313億7千2百万円(前期比9.5%増)、営業利益14億9千2百万円(同4.4%増)、経常利益14億6千万円(同0.1%増)となりました。当期純利益は、保有する株式の一部を売却したことで投資有価証券売却益4億8千2百万円が特別利益に計上されたことにより、12億8千9百万円(同40.2%増)となりました。業績予想には届きませんでしたが、売上高、利益ともに過去最高を更新することができました。



代表取締役社長  
千葉 茂

**Q** 不整脈事業の市場の見通しと事業戦略についてお話しください。また、宮崎、沖縄、土浦に開設された出張所の状況と、地方のシェアを伸ばすための施策を教えてください。

**A** 当社の事業の対象となる不整脈、虚血関連の医療機器市場につきましては、高齢者の罹患率が高いため高齢化の進展により拡大傾向が継続しております。

そのような市場環境において、当社の不整脈事業は、関東エリアにおける売上の割合が高く、その他のエリアに拡大できる余地が残されております。

前事業年度(2015年3月期)では宮崎出張所の開設により南九州地域への営業展開を行い、当事業年度(2016年3月期)においては沖縄での顧客開拓の拠点とするべく、沖縄出張所を開設しました。また、直近では、2016年4月に土浦出張所を開設することで既存顧客の深耕にも努めております。

今後もエリア拡大への取組みと、お客様のニーズに応えることができる人材の育成を地道に続けてまいります。

**Q** 虚血事業の事業戦略についてお話しください。M&Aについて、どのように考えていらっしゃいますか。

**A** 私たちが目指しているのは、医療現場や患者様とそのご家族の負担を少しでも軽減すること、海外で行われている素晴らしい治療法を日本に導入して多くの患者様が治療を受けられるようにすることです。そのためにも医療現場のニーズを満たす新しい商品を提供し続けるということが重要であり、新商品導入への取組みを強化しています。また、虚血事業に限らず、スピード感をもって新しい技術や新しい商品を取り入れるために、M&Aについても前向きに検討してまいります。

**Q** 2016年4月に診療報酬の改定が行われましたが、販売価格の下落や為替、価格競争等のリスク要因に関して、どのような対応策を講じていくのかお話しください。

**A** 診療報酬については医療費の削減に向けて引き下げ傾向が続くものとみており、既存商品は徐々に価格が下がることになります。しかし一方では、新しい技術が次々と生まれてきているため、それらを積極的に導入していくことが、患者様や医療現場の負担を軽減すると同時に、結果的に当社業績における価格下落の影響の軽減にもつながると考えています。

為替の変動については、想定レートを1ドル114円とし、1円の円安が約1,600万円の利益マイナス要因となります。為替差損のリスクに対しては、為替相場の動向を注視しながらヘッジ策を講じております。仕入価格の上昇に対しては、価格交渉を考慮しながら仕入先との関係強化を図っております。

## ミッション(企業理念)

● 私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。

● 目標に向かって個々の力を最大限に発揮する『心』ある社員により集団を結成し、確かな未来を見据え、目的意識を明確に保持し、変化に対応する新しい企業です。

**Q** 薬事承認申請準備中の下肢末梢動脈治療用レーザーカテーテルが承認され、販売開始になった場合に、エキシマレーザーシステムの販売に与える影響についてお話しください。

**A** エキシマレーザー血管形成システムには3つの使用方法があります。現在薬事承認が取れているのはそのうちの2つ、冠動脈形成術と心内リード抜去術ですが、そこに3つ目の下肢末梢動脈治療が加わることにより、医療施設にとって同システムを導入するメリットが増すことを期待しております。

**Q** 株主還元策に関する方針を含めて、株主の皆様へメッセージをお願いします。

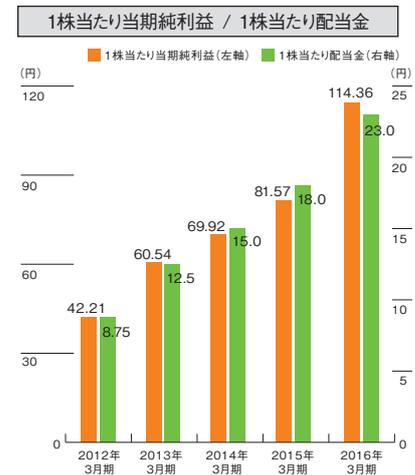
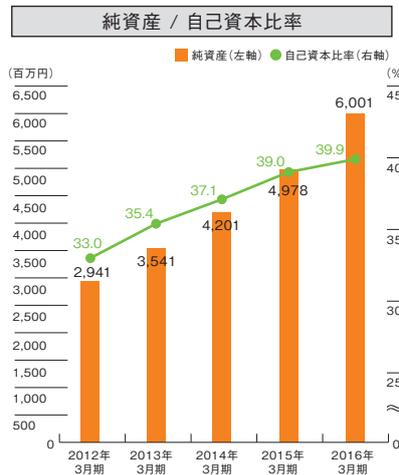
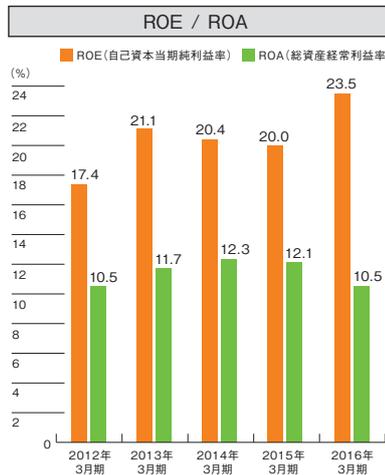
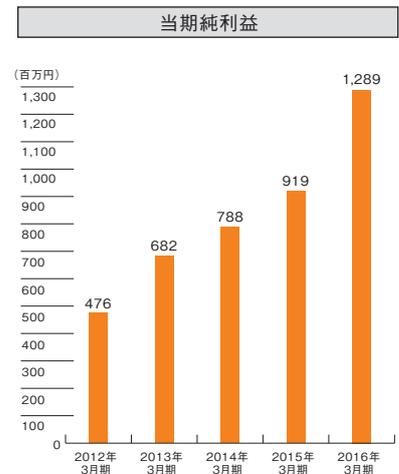
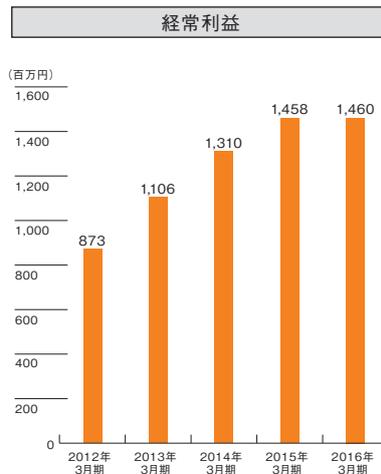
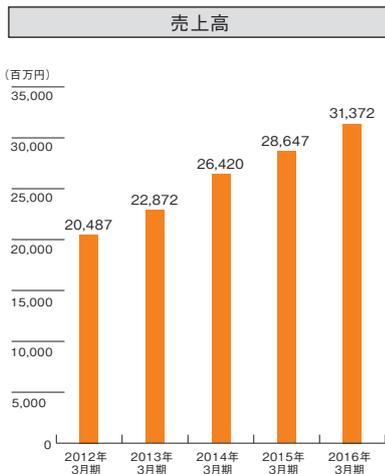
**A** 当事業年度の1株当たり配当金は前期比5円増配の23円(配当性向20.1%)とさせていただきます。なお、2017年3月期より、配当性向25%(従前は20%)を目途に配当を決定する方針としました。また、おかげさまで、本年4月1日には創業30周年を迎えることができました。今後も全社一丸となって目標に取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては末長いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# 財務ハイライト (2015年4月1日～2016年3月31日)

## 2016年3月期のポイント

第30期において売上高300億円を達成。  
上場以来連続の増配を継続しております。

当社にとって利益率の下押し要因となる円安の進行等、厳しい経営環境が続く中、営業エリアの拡大や独自商品の販売拡大を推進した結果、増収・増益を達成することができました。



2012年10月1日および2014年4月1日を効力発生日として1:2の株式分割を実施いたしましたので、分割割合を乗じて算出しております。

## ポイントの解説

### 1 ROE

資本効率を表すROE(自己資本当期純利益率)は20%以上を目標としておりますが、当事業年度においては23.5%となり前事業年度に続き目標を達成することができました(前事業年度のROEは20.0%)。今後も効率性を重視した経営を推進してまいります。

### 2 配当性向

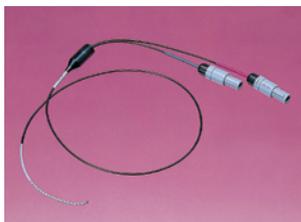
当事業年度の配当金につきましては、配当性向20%を目標として決定するという方針に基づき1株当たり23円(配当性向20.1%)とさせていただきます。2007年の上場以来の連続増配を継続しました。なお、2017年3月期より、配当性向25%を目標として配当を決定する方針です。

## 事業セグメントの状況

### 不整脈事業 Arrhythmia Business

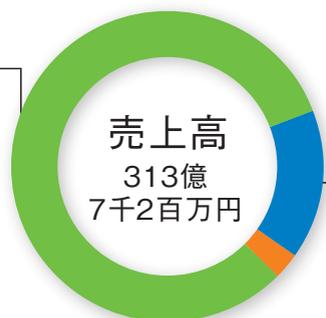
当期実績  
売上高256億6千7百万円

既存顧客に対するサービスの充実に努めるとともに、特に西日本エリアにおける新規顧客の開拓に注力いたしました。その結果、心臓ペースメーカーやアブレーションカテーテル(心筋焼灼術用カテーテル)類、検査用電極カテーテル等の主力商品の販売数量が増加したことから、当事業年度の売上高は256億6千7百万円(前期比10.3%増)、セグメント利益は35億1千1百万円(同4.0%増)となりました。



電極カテーテル

不整脈の診断や薬効評価に欠かせない心臓電気生理検査用カテーテルおよび、アブレーション(焼灼)治療用カテーテル等があります。



#### 事業セグメント別売上高構成比

不整脈事業	81.8%
虚血事業	15.5%
その他	2.7%

\*「その他」においては、脳外科関連商品、一般外科関連商品、放射線防護用品、書籍等を販売しております。

### 虚血事業

Ischemia Business

当期実績  
売上高48億7千2百万円

輸入総代理店として取り扱っている自動造影剤注入装置「ACIST」やエキシマレーザ血管形成システムの販売が全般的に好調に推移したものの、円安の影響により、これら輸入商品の仕入価格が全般的に上昇することとなりました。その結果、当事業年度の売上高は48億7千2百万円(前期比10.9%増)、セグメント利益は13億8千5百万円(同0.5%減)となりました。



エキシマレーザ血管形成システム

現在日本国内において「エキシマレーザによる心内リド抜去術」「エキシマレーザによる冠動脈形成術」の2つの治療に適用が認められています。

## 営業の概況

Operating Results

### 営業エリアの拡大を進めるとともに、 独自商品の販売拡大と新商品の獲得に努めました。

販売代理店としては営業エリアの拡大を進め、前事業年度において宮崎出張所を開設し、南九州地域への営業展開を行ったのに続き、当事業年度では沖縄における営業展開の足掛かりとするため、沖縄出張所を開設いたしました。

輸入総代理店としては、独自商品の販売拡大と新商材の獲得に努め、エキシマレーザ血管形成システムによる冠動脈形成用レーザカテーテルの拡販に注力するとともに下肢末梢動脈治療用レーザカテーテルの薬事承認に向けた治験を進めました。

## 2017年3月期(通期)の業績予想

Outlook

### 引き続き営業力の強化と独自商品の販売拡大を目指すことで、 持続的に業容の拡大を目指してまいります。

主力の不整脈事業において、高度な専門性を活かして新規顧客開拓を行うことで、継続的に営業エリアの拡大を目指してまいります。また、メーカーとの関係強化を通じて、仕入コストの低減にも取り組んでまいります。また虚血事業においては、不整脈事業との連携を強化しつつ、自動造影剤注入装置「ACIST」の買い替え需要を着実に獲得するとともに、エキシマレーザ血管形成システムのさらなる普及を図ることで、販売拡大を目指してまいります。

#### ■ 2017年3月期の業績予想

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2017年3月期	33,200	1,536	1,536	1,028
2016年3月期(実績)	31,372	1,492	1,460	1,289
増減率(%)	5.8	3.0	5.2	△20.3

当社に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.dvx.jp/ir/index.html>

最新のIR情報を掲載しています。

dvx

検索

# ● Front Line —DVx 30年の歩み—

おかげさまで、2016年4月1日、ディーブイエックス株式会社は創立30周年を迎えました。これからも、「人に優しい医療」に貢献するために、常にベンチャー精神を持ち続け、新医療技術の開拓と開発に貢献し、その成功に無限の可能性を求め続ける企業を目指してまいります。

1986年

## ● (株)ヘルツ設立

当時は心臓ペースメーカーの植込み手術後の長期にわたる定期健診の仕組みが十分に確立されておりました。そのような状況を改善しようと、大手医療機器メーカーの営業担当者であった現代表取締役会長若林誠が、心臓ペースメーカーの販売とそのフォローアップ業務を目的として(株)ヘルツ(現ディーブイエックス(株))を設立しました。

1986年

1992年

## ● 心臓電気生理検査機器の輸入販売開始

当社は、不整脈の一種である頻脈の根治療法であるアブレーション(心筋焼灼術)にも注目しました。カテーテルを使った経皮的術式であるアブレーションは患者の負担も小さく、成功率も高い画期的な手技でした。当社は他社に先駆け、アブレーションの際に使用する検査用医療機器(カナダQuinton社製 心臓電気生理検査用コンピューター「EP Lab」、現在は取扱い終了)の輸入販売に着手し、全国販売を開始しました。

1992年

2000年

## ● 米国ACIST社製自動造影剤注入装置「ACIST」の輸入販売開始



循環器用の血管造影(アンギオ)用インジェクタ(自動造影剤注入装置)である「ACIST」により、手技の効率化や造影剤量の削減を提案しました。

2000年

2001年

2001年

## ● 日本で初めてAEDを販売

現在では公共施設だけでなくコンビニ等でも見かけるようになったAED(自動体外式除細動器)ですが、この年、当社が日本で初めて販売し、日本航空の旅客機に搭載されました。

2001年

2003年

## ● 米国Spectranetics社製エキシマレーザ血管形成システムの輸入販売開始

エキシマレーザによりプラークや血栓を蒸散させる「エキシマレーザによる冠動脈形成術」や「エキシマレーザによる心内リード除去術」といった新たな治療法、術式が可能となりました。

2003年

2004年

2004年

## ● ディーブイエックス株式会社に商号変更

(株)ヘルツが、1997年に子会社化した(有)シー・エム・アイ・ジャパン(株式会社に改組後2001年にディーブイエックスジャパン(株)に商号変更)を吸収合併し、ディーブイエックス(株)に商号変更しました。

2004年

2007年

2007年

## ● ジャスダック証券取引所に上場



2007年

2013年

2013年

## ● 東京証券取引所市場第二部に上場



2013年

2014年

2014年

## ● 東京証券取引所市場第一部に上場

# インフォメーション

## 会社の概要 (2016年4月1日現在)

商号	ディービエックス株式会社 (DVx Inc.)		
設立	1986年4月1日(昭和61年4月1日)		
資本金	3億4千4百万円		
本社所在地	東京都豊島区高田2-17-22 目白中野ビル5階		
代表者	代表取締役社長 千葉 茂		
従業員数	261名		
事業内容	医療用機器ならびに関連周辺機器の輸出入および製造販売業、修理業、リース業 医療用機器ならびに関連周辺機器の研究・開発 医療および医療用機器全般のコンサルティング業務ならびにサービスの内外提供 医療出版および市場調査を含む関連サービスの内外提供		
営業所	北海道営業所	東北営業所	
	茨城営業所	群馬営業所	
	埼玉営業所	東京営業所	
	八王子営業所	横浜営業所	
	静岡営業所	沼津営業所	
	浜松営業所	名古屋営業所	
	大阪営業所	広島営業所	
	福山営業所	九州営業所	
出張所	盛岡出張所	土浦出張所	
	栃木出張所	福井出張所	
	宮崎出張所	沖縄出張所	

## 役員 (2016年3月31日現在)

代表取締役会長	若林 誠	社外取締役	村松 光春
代表取締役社長	千葉 茂	社外取締役	堂垣内 重晴
取締役	柴崎 浩	常勤監査役	戸田 幸子
取締役	魚住 洋二	監査役(社外)	三縄 昭男
取締役	鍋谷 正行	監査役(社外)	中村 真一
取締役	平能 直弘		

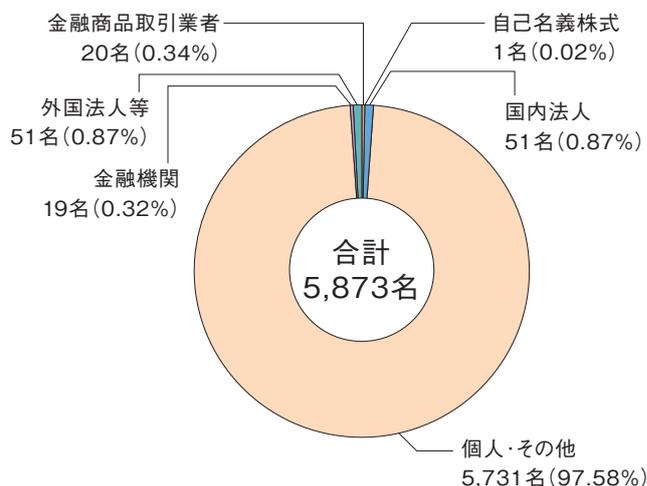
## 大株主 (上位7名) (2016年3月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社MSS	3,192,800株	28.30%
若林 誠	1,692,000株	15.00%
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	758,800株	6.72%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	285,500株	2.53%
立花証券株式会社	265,700株	2.35%
ディービエックス社員持株会	188,700株	1.67%
岡 文男	136,100株	1.20%

## 株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	11,280,000株
株主数	5,873名

## 所有者別株式分布状況 (2016年3月31日現在)



## 株主メモ (2016年3月31日現在)

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.dvx.jp/">http://www.dvx.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。